

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修概要

7 障害福祉サービスの基礎と実際

伝えたいこと

講義の構成

□ 障害福祉サービス事業所等におけるピアサポート活動（例）

多様なピアサポートの活用



地域移行・定着

- 精神科病院に社会的入院として数年から数十年間の入院期間の結果、地域での生活能力が著しく低下し、入院患者が地域で暮らす希望、退院した後地域で安心した生活を送るための医療・福祉サービスの調整を含めた支援を精神障がいピアサポーターが提供する場合もある。



**住居系サービス
GHなど**

- 地域で暮らしている精神障がい者が生活していく上で、食事や掃除・洗濯などの家事について支援が必要な場合、ヘルパーの資格を持った精神障がい者がピアヘルパーとなり健常者のヘルパーと一緒にホームヘルプサービスを提供したり、GHの世話人としての関わりを持つ住居サービスが存在し実績を上げている。



障害福祉サービス事業所

- 障害者総合支援法における障害福祉サービス提供事業所で就労継続支援A・B型や就労移行支援などにおいて精神障がいを持つ当事者が職業指導員などの立場からサービス提供者としての関わりを持つ場合や地域活動支援センターなどでプログラムの準備・進行などの役割を持つピアサポーターが増えつつある。



計画相談支援

- 障害福祉サービスを利用する際のサービス等利用計画作成時に、要望を聞き取る際のご本人の気持ちや考えをくみ取るためやモニタリングの際に同席することによりご本人が自分のことを話しやすい効果やご本人に合ったインフォーマルサービスの提案に効果があることから、今後の活躍の場としての期待されている。

出所：「都道府県、政令市を対象とした障害者ピアサポート研修の実施に関する説明会」資料（令和3年6月11日）

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修概要

【演習④】8 障害福祉サービスの基礎と実際の振り返り、気づきの共有

獲得目標	● 障害福祉施策の歴史や障害福祉施策の仕組みを学ぶことで、ピアサポーターが雇用される障害福祉サービスの歴史や現状、その枠組みなどを理解する。
設問	□ 福祉サービスにおいて、ピアサポートがどのように活用されるのか、話合ってみましょう
ファシリ の留意点	⇒ <u>委員会にて、意見交換</u>

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修概要

9 ピアサポートの専門性

獲得目標

●ピアサポートの具体的な専門性や倫理と守秘義務を学ぶことで、ピアサポートの専門性を理解する。

時間

30分

<伝えたいこと>

(1) わたしたちの大切な強み

障がいや病気を持ちながら生きてきた経験をいかして、同じような経験をしている人を応援できます。

(2) 倫理と守秘義務

ほかの人を応援するときに、大切なルールがあります。

出所：平成30年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（身体・知的分野））
障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究 基礎研修テキスト（第3版）2019年 3月

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修概要

9 ピアサポートの専門性

伝えたいこと	講義の構成
わたしたちの大切な強み	❑ 障害があると、壁ができて自信がなくなる ❑ ピアサポートの強みは、同じような生きづらさの経験があるからこそ、大きなサポートができること ➢ 壁を感じさせない ➢ 壁を作らない ❑ 主役は相手 ➢ まずは話を聞いて、焦らないで少しずつ関係を作りましょう ❑ わたしたちの強みのもと ➢ 気持ちが分かる ⇒相手が安心できる ➢ 障害や病気ではなく、人として相手を見る ⇒可能性を話し合うことができ、相手が希望を持つ助けになる ➢ リカバリーしてきた/障害と共に生きてきた人生を見せられる ⇒生きているお手本になれる ❑ 生きてきた経験を活かす ➢ 生きてきた経験を相手に話すこと ❑ 個々の強み・良さ・得意なことの引き出し方 ⇒ピアサポートの専門性を有効に発揮し続けるために、その基盤となるものを醸成していくには、どのようなことが必要でしょうか？（講義内容に深みを増すため） ⇒障害領域ごとに、表現等に違和感はないでしょうか？

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修概要

9 ピアサポートの専門性

伝えたいこと	講義の構成
倫理と守秘義務	□ ピアサポーターの活動をするときに守らなければいけないルールがあります。 □ まず、「ピアのために活動しなければなりません」 □ ピアの情報を、ピアの同意なく、他の人に伝えてはいけません。 □ これは、ピアサポーターだけでなく、ピアを支援する人みんなに当てはまります。 □ ピアから聞いた情報を、他の人に伝えてほしくないか、誰かには伝えてほしいか確かめます。 □ 情報を伝えて良いか、悪いかについての法律もあります。 □ 倫理規定は雇用先となる、各法人や事業所などで、規定されていますので、上記は例示になります

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修概要

【演習④】10 ピアサポートの専門性の振り返り、気づきの共有

獲得目標	●ピアサポートの具体的な専門性や倫理と守秘義務を学ぶことで、ピアサポートの専門性を理解する。
設問	□ ピアサポーターの大切な強みについて、どう思いますか □ ピアサポーターと専門職がいっしょにサポートすることについてどう思いますか
ファシリ の留意点	⇒<u>委員会にて、意見交換</u> The diagram shows a vertical progression of growth. At the top, a box labeled 'ピアサポーター + ほかの専門職' (Peer Supporter + Other Professionals) is shown. Below it, two figures labeled 'ピアサポーター' and 'ほかの専門職' are shaking hands. To the right, a green box states: 'それぞれの強みをいかして、いっしょにより広いサポートができる' (By utilizing each other's strengths, we can provide even wider support together). To the left, a vertical arrow points upwards, labeled '働きながら成長' (Growth while working). Below the handshake, a box labeled '資格・研修' (Qualification/Training) is shown. At the bottom, a box labeled '信頼できる人' (Trusted person) is shown. To the left of this box, a vertical arrow points upwards, labeled '強みのもと' (Foundation of strengths). To the right of the '信頼できる人' box, there are three illustrations: a group of people, a person sitting and reading, and a person standing at a whiteboard in a classroom setting labeled '学校など' (School, etc.). Above the group of people, text reads: 'しょうがいや病気のなかで生きてきた経験' (Experience of living with a disability or illness). Above the person reading, text reads: 'なか' (Amongst). Above the person at the whiteboard, text reads: 'がっこう' (School).